

「ちょっと暮らし」 実施状況

地域おこし協力隊
奥本

実施自治体数

エリア	全自治体数	「ちょっと暮らし」 実施自治体数	実施率	提供戸数	平均戸数
道央	70	29	41%	114	3.9
道南	18	11	61%	27	2.5
道北	41	18	44%	57	3.2
オホーツク	18	9	50%	31	3.4
十勝	19	16	84%	57	3.6
釧路・根室	13	9	69%	23	2.6
合計	179	92	51%	309	3.4

※ 提供戸数が多い自治体

- ① 秩父別町 20戸
- ② 浦河町 15戸
- ③ 新ひだか町 12戸
- ④ 下川町 11戸
- ⑤ 上士幌町 10戸

・ 釧路市を除く

北海道体験移住「ちょっと暮らし」令和元年実績（抜粋）

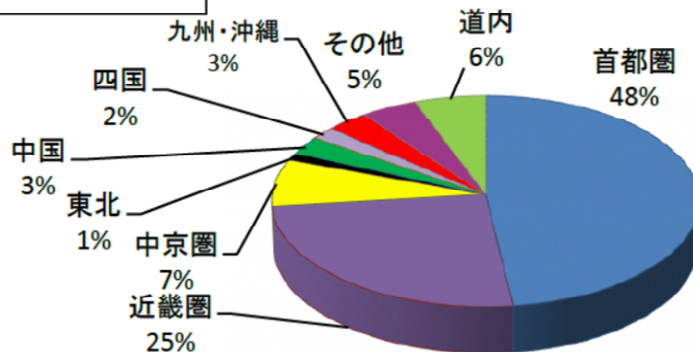
1 令和元年度実績（H31.4.1～R2.3.31）

区分	令和元年度実績	対前年度比
利用件数	2,713件	130.1%
利用者数	4,666人	119.4%
滞在日数	94,924日	108.5%
平均滞在日数	20.3日	91.1%

2 利用者の居住地別人数等

居住地	利用件数	利用者数	対前年比	滞在日数	対前年比
首都圏	1394件	2,244人	145%	37,775日	115%
近畿圏	673件	1,176人	103%	24,962日	110%
中京圏	168件	336人	86%	8,864日	87%
東北	26件	52人	83%	1,906日	97%
中国	86件	135人	136%	3,025日	127%
四国	52件	88人	154%	1,606日	93%
九州・沖縄	91件	158人	114%	3,206日	125%
その他	97件	211人	127%	5,990日	144%
道内	126件	266人	89%	7,590日	84%

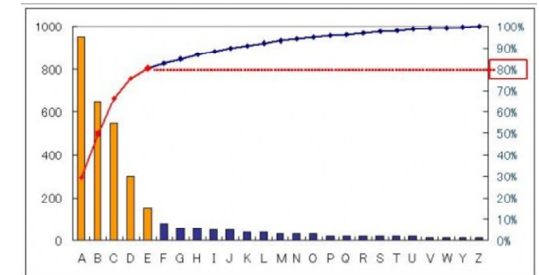
利用者数の割合



3 利用者数等上位10市町村

順位	利用者数	順位	滞在日数
1	釧路市 2,219人	1	釧路市 25,872日
2	上士幌町 161人	2	新ひだか町 5,143日
3	新ひだか町 91人	3	浦河町 4,949日
4	東川町 90人	4	上士幌町 4,847日
5	浦河町 82人	5	美瑛町 2,651日
6	紋別市 78人	6	紋別市 2,111日
7	栗山町 69人	7	当別町 1,911日
8	深川市 57人	8	平取町 1,865日
9	清里町 56人	9	士幌町 1,854日
10	黒松内町 54人	10	旭川市 1,633日

（参考：パレート図）



考 察

平均利用者数は1.7人/件である

⇒ 利用者はファミリーよりも単身又は2人（パートナーのみ）が多そうである

首都圏からの利用者がほとんどで、道内の利用者は少ない

⇒首都圏での知名度が、利用状況に影響しそうである

利用者数

・ 釧路市だけで47.5%、上位10市町村で63.4%を占める

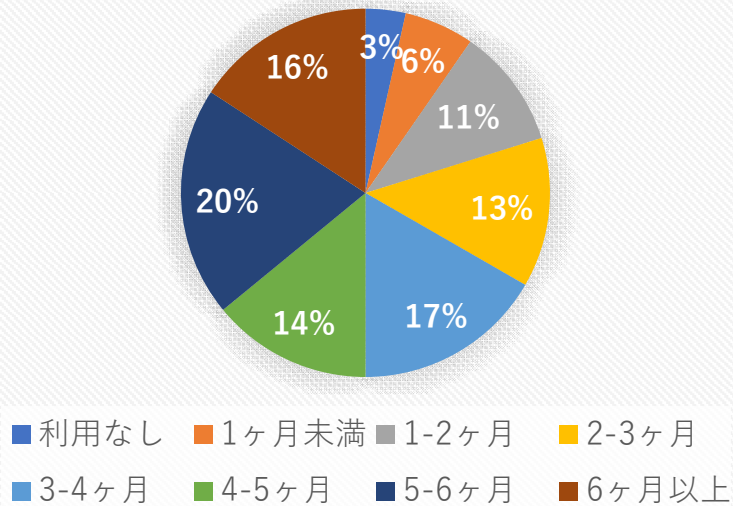
滞在日数

・ 釧路市だけで27.3%、上位10市町村で55.7%を占める

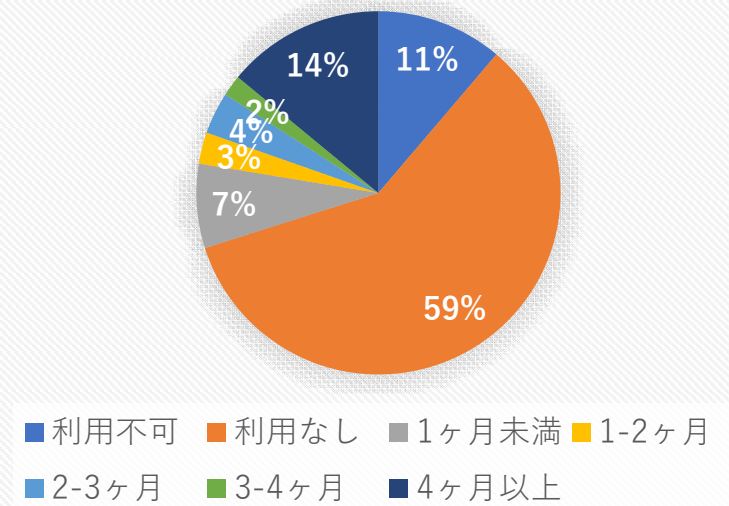
⇒ 俗にいう「80：20の法則」（売上の80%は、たった20%の顧客によってもたらされている）のなかに参入しようとしている

お試し住宅利用状況

夏季(4-10月)利用状況



冬季(11-3月)利用状況



- 夏季（4月-10月）でも4ヶ月未満の稼働状況の住宅が半数を占める
- 冬期（11月-3月）はほとんど予約なし
 - 平取町は冬期、除雪や通院に支障がある高齢者の利用を認めている
 - 利用料金を半額にして、冬季の利用を促している自治体もある（通常は暖房費分高めの設定）
- 年間の2/3は稼働していない住宅が約半数ある

利用者から見た「ちょっと暮らし」の利用価値

- ・ 地方移住、田舎暮らしでのよくある失敗例

失敗例	対策
移住先で仕事を見つけるのが大変、仕事が見つからない ・ そもそも移住先の人口が少ないということは働き口も限られ、一般的には賃金も都会と比べて低いので、希望通りの職種・条件の求人に短期間で巡り会うというのは難しい。	移住後に職を探すよりは、希望の地域で仕事を見つけてから移住を実行する。
移住先が不便過ぎる ・ バスや電車が1時間に1本、地域によっては1日に数本のみ ・ スーパーなど商業施設があまり多くない ・ 医療機関の少ない	事前に調査し、耐えられない場合は、条件に合った移住先に変更するか、移住を諦める
人間関係、近所づきあいが想像以上に大変だった ・ 近所づきあいが必須でプライベートがない	住んでみないとわからない
暗黙のルール ・ 自治会、消防団、地域のイベントの参加が必須 田舎に特有の事情として、自治会や消防団などのコミュニティ活動には事実上強制参加である場合がある。当番や役は指名制で断れない、頻繁に手伝いや飲み会に駆り出される、イベントの欠席は認められないなど	住んでみないとわからない

- ・ 移住前に「ちょっと暮らし」で住んでみないとわからない情報を収集できる

⇒ 「ちょっと暮らし」利用者へ情報提供する場（プログラム）を準備する必要

宿泊体験住宅のプロフィール

各自治体で提供されている 住宅タイプ	開始の手軽さ (資金/時間面)	滞在期間	厚田の状況
既存の宿泊施設 (民宿・旅館・ホテル等)	○	× (~4日)	△
既存の貸別荘	○	△ 夏休み期間中は利用できない ケースが多い	△
既存のウィークリー マンション	○	○	×
個人の空き家	△	○	?
旧教職員住宅をリフォーム	△	○	△
新築 (コンテナハウス~地元産木材 を使った家)	×	○	—

利用料金(夏季)

- 9,200~210,000円/月

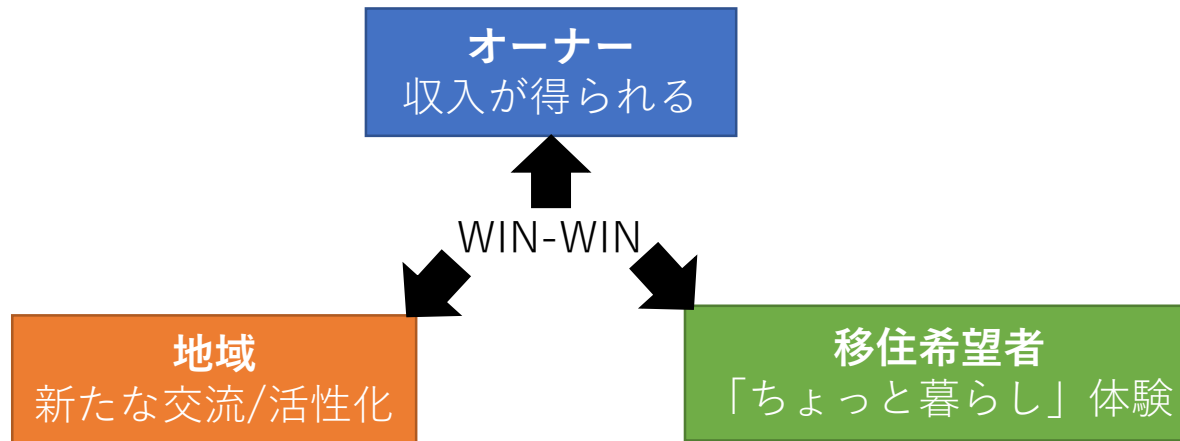
備品状況

水道光熱費	件数	平均家賃 (円/月)
利用料込み	177	76,110
実費精算	40	41,955

テレビ	冷蔵庫	コンロ	電子レンジ	炊飯器	テーブル	椅子/ソファ	ベッド	
98%	99%	98%	96%	96%	98%	89%	65%	
風呂	シャワー	トイレ	ウォシュレット	洗濯機	暖房機	Wi-Fi	エアコン	電話
98%	100%	100%	86%	96%	98%	74%	11%	2%

「ちょっと暮らし」開始に向けての課題

- 提供住宅の用意
 - ⇒ 既存の宿泊施設（民宿・民泊）の利用
 - ⇒ 空き家の有効活用



- 道外（特に首都圏）に向けて、厚田の魅力発信をする
 - ⇒ 新設するHPには首都圏に住んでいる人に刺さる載せるコンテンツを決める
- 移住希望者への地域情報の提供方法の検討
 - ⇒ 提供プログラムの開発とその検証